かけはし

川崎市立向丘小学校
学校便り１１月号
Ｒ８．１０．２９

「協力」はかけ算！
一人ひとりの力をより大きな力に

校長　秋山　直子

秋のグラウンドやアリーナに、運動会の練習をする元気な声や楽しそうな音楽が響いています。学校は現在、運動会色に染まっています。

後期始業式では、「努力はたし算、協力はかけ算」という話をしました。力を数字に置き換えたとき、「努力」は１日目が３、２日目が５、３日目が１だとすれば、その時点で３＋５＋１=９の力がついていることになります。そして、４日目が０だったとしても、９＋０=９ですから、積み上げてきた努力がなくなってしまうことはありません。「協力」は、Ａさんが３、Ｂさんが２、Ｃさんが４だとすれば、３×２×４=24 の力になります。ただし、Ｄさんが全く協力をせず０だったとすると、24×０=０になってしまいます。「協力」は全員で。みんなの力を合わせることが大切です。どんなことでもいい、自分ができる「協力」をしよう、と。

運動会はまさに全員の力を合わせて「協力」する場面が多い行事です。日々の練習や各係の準備、27 日（火）に行われた全校練習を見ても、自分ができることを精一杯がんばり、よい運動会にしようという気持ちが一人ひとりから感じられます。とてもすてきな活力に満ちた子どもたちです。

当日は、きっと生き生きとした姿を見せてくれることと思います。それまでの練習や準備の分も含め、子どもたちにどうぞあたたかい拍手をお願いいたします。

さて、私が「協力」という言葉で一番に思い出すのは、約 50 年間も教科書に掲載され続けている物語、レオ・レオニ作「スイミー」です。地域にもよりますが、保護者の皆様も小学生の頃に学んだ記憶があるのではないでしょうか。２年生の国語の教材ですが、毎年その頃教室に行くと、子どもたちがつくったスイミーの大きな絵が掲示してあります。今年度も、学習が終わっても机の中に画用紙に描いたスイミーを忍ばせていて、時折登場させる子もいるそうです。昔も今も、子どもたちはスイミーの物語が大好きです。

赤い魚のきょうだいたちの中で一匹だけ真っ黒なスイミー。もしもスイミーが自分の色を嫌ってみんなと同じになろうとしたり、群れに入らず遠いところに行ってしまったりしていたらどうだったでしょう。もし赤い魚たちが最後までスイミーを受け入れなかったら。自分の持ち場を離れたり、みんなで息を合わせられなかったりしたら。大きな魚のふりをして、自分や仲間を守ることはできなかったはずです。赤い魚たちだって、赤色に微妙な違いがあったり、泳ぐ速さが違ったりと、全く同じ魚は一匹もいなかったに違いありません。それぞれが自分のよさ、周りの良さを認め、自分にできることを精一杯行い、全員で心を合わせたからこそ、困難を乗り越えることができたのです。子どもたちは、きっとそんなスイミーの知恵や魚たちの仲間意識、困難に立ち向かう姿勢に心が動かされるのでしょう。子どもたちは「協力」の素晴らしさをちゃんと知っているのです。

これからも、子どもたち一人ひとりが「自分らしさ」を大切にしながら、互いを認め合い、力を合わせてより大きな力を生み出せるよう、日々の教育活動を推進してまいります。また、見守る私たち大人も、力を合わせて子どもたちを支えていきたいと思っています。今月も本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



